― 次代の建設技術とその普及・活用促進に向けて ―

先端建設技術セミナー

２０１３年１０月２日（水）
13:00～17:１０（予定）
（受付 12:00～）

定員 500名　CPD認定　入場無料

特別講演

『災害対応および原発事故対応のためのロボット技術開発と運用』

東京大学大学院・工学系研究科・精密工学専攻　教授　淺間　一

東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の事故においては、ロボット技術の適用が求められた。これまでに災害現場や事故現場で適用されたロボットや遠隔操作機器について紹介するとともに、これまでの開発や現場投入において明らかになった様々な課題について述べ、社会インフラや設備の老朽化に伴う点検・メンテナンスのニーズも含め、廃炉や今後の災害に対する備えとして、ロボット技術活用において何が必要かについて述べる。



淺間　一（Hajime Asama）

1984 年 3 月　東京大学大学院工学系研究科修士課程終了。
理化学研究所、東京大学人工物工学研究センター教授を経て、2009 年に東京大学大学院工学系研究科教授に就任。
自律分散型ロボットシステム等、数多くのロボットシステムに関する研究に従事。工学博士。

会　場／イイノホール
（東京都千代田区内幸町 2-1-1）



最寄り駅からの所要時間
地下鉄日比谷線・千代田線　霞ヶ関駅　C3 出口から徒歩１分
地下鉄丸ノ内線　霞ヶ関駅　B2 出口から徒歩５分
地下鉄銀座線　虎ノ門駅　９番出口から徒歩３分

■問い合わせ先■
一般財団法人　先端建設技術センター　総務部
〒112-0012　東京都文京区大塚 2-15-6 ニッセイ音羽ビル４階
TEL　03-3942-3990　／　FAX　03-3942-0296
お問い合わせ時間：午前 10 時～午後 5 時（土日祝は除く）

■お申し込みについて■
・裏面参加申込書にご記入の上、ＦＡＸにて **9 月 25 日（水）までに**必着でお申込み下さい。
・参加申込みが多数の場合は調整させていただく場合があります。
・参加証は発行しません。当日は名刺をご用意の上、会場へお越し下さい。
・無料駐車場はご用意しておりません。公共交通機関をご利用ください。

平成 25 年度建設技術審査証明協議会「新技術展示会」を同会場で開催いたします。
（１２：００～１７：30）

プログラム

１３：００～　開会挨拶

１３：１０～　「NETIS プラス～技術開発のスパイラルアップを目指して」

技術調査部長　森下　博之

当センターは、国土交通省の新技術活用に関する取組みである「公共工事等における新技術活用システム NETIS」の制度設計や制度運営に関わっている。また、本年より当センター独自のデータベース「NETIS プラス」の運営を開始し、建設業に携わる関係者への情報発信に努めている。本報告では、この NETIS プラスの特徴をわかりやすく紹介するとともに、最近の新技術の動向や技術開発のスパイラルアップを実現するために当センターが果たすべき役割等について報告する。

１３：４０～　「CIM の普及促進に向けて～先端建設技術センターの取組み」

技術調査部 兼 技術評価室　参事　緒方　正剛

2012 年、国土交通省は 3 次元モデルを活用した新しい建設生産システムである CIM（Construction Information Modeling）を提唱した。これを受けて国土交通省を中心とした制度検討会、並びに当センターを含む 11 の関係団体からなる民間主導の技術検討会が発足した。当センターは、技術検討会の主務として CIM の普及促進に関する様々な活動を積極的に行っており、その成果として平成 25 年 4 月に「CIM 技術検討会平成 24 年度報告」を取り纏めている。また 25 年度より国土交通省から受託した施工計画検討業務において CIM の実践を開始し、適用の効果について検討を進めている。本報告では、このような当センターの取組みについて報告する。

（　休　憩　１４：２０～１４：４０　）

１４：４０～　「がれき残渣の有効活用によるアップサイクルブロックの開発」

常任参与兼企画部長　加納　敏行、㈱大林組　技術第二部課長　森田晃司

東日本大震災で大量に発生したがれきのうち、分別・分級してもリサイクルできない残渣を有効活用した建設資材“アップサイクルブロック”を製造する技術を開発し、被災地の復興事業のインフラ整備に活用される予定となっている。またこの技術は、安定五品目を中心とした産業廃棄物の処理にも適用できる可能性を秘めている。
本研究開発は、先端建設技術センター、並びに大林組、鹿島建設、熊谷組、清水建設、大成建設の 6 者による共同研究として、2 年前に開発を開始したものであり、ここではその経緯と現状、並びに今後の展望について報告する。

１５：１０～　「無人化施工技術の変遷と最新の技術動向について」

企画部 兼 技術調査部　参事　吉田　貴

無人化施工が、雲仙普賢岳で本格的に導入されて約 20 年が経過した。その間、様々な技術開発と継続的な事業展開により、無人化施工は、実用的な工法として確立した。また、この雲仙岳で培ったこの無人化施工技術は、全国に展開され、多くの災害復旧工事等での実績を有するまでに成長した。本報告は、この無人化施工技術の変遷と当センターも参画している「ネットワーク型次世代無人化施工システム」などの最新技術動向について述べるものである。

（　休　憩　１５：５０～１６：１０）

１６：１０～　特別講演『災害対応および原発事故対応のための口ボット技術開発と運用』

東京大学大学院・工学系研究科・精密工学専攻 教授　淺間　一

参 加 申 込 書

お申込みFAX　03－3942－0296

■勤務先名（必ずご記入ください）			
参加者氏名	**所属部署／役職**	**ＴＥＬ**	**ＦＡＸ**
ふりがな			
ふりがな			
ふりがな			

主催／一般財団法人　先端建設技術センター